

■石原忍 眼科医師。石原式色盲検査表はじめ、色盲研究に多大の貢献をした。

いしはらしのぶ

琉球処分・・・1879＝ 東京市麹町区永田町で、ともに愛知県(尾張国)の出身の石原氏基・レイの長男に生まれる。父は陸軍教導団から砲兵の士官となり、晩年には下関で砲兵連隊長を勤めた人。

明治14年政変1881＝ 2歳： 新体詩抄・・・1882＝ 3歳： 父の転任で函館、さらに大坂へ。この間、母から小倉百人一首を教えられ暗誦。

秩父事件・・・1884＝ 5歳： 父の転任で東京へ戻り、四谷小学校に入学。

初の対等条約1888＝ 9歳： 帝国憲法発布1889＝10歳： 一家が東多摩郡中野村へ転居し、中野桃園小学校へ転校。

郡司千島探検1893＝14歳： 父が淡路島へ転任したため、母の姉の嫁ぎ先の衆議院の書記官長水野遵の家に預けられ、神田の開成中学共立学校へ通う。のち、入学試験を受けて飯田町の共立中学校へ転校。

日清戦争始・・・1894＝15歳： 白馬会・・・1896＝17歳： 父が台湾へ転任。母と共に中野へ戻る。天文学が好きだったが父の意見に従って医学に転じ、八幡製鉄始・・・1897＝18歳： 東京府立城北中学校を卒業すると、第一高等学校の第3部(医科志望)に合格するが、外国語がドイツ語でなければ入学許可されなかったため、一年ドイツ協会学校の別科に通い、

子規句歌革新1898＝19歳： ドイツ語の試験だけを受けて入学。寄宿舎に入り、ボート部に所属。

田中正造直訴1901＝22歳： 卒業し、東京帝国大学医科大学に進学。ボート部に所属。

日比谷公園・・・1903＝24歳： 父が結核で死去。母が内職などして家計を支えることになり、志願して陸軍の委託学生となり、日露戦争終・・・1905＝26歳： 卒業。見習い医官として近衛歩兵第二連隊に入隊。

満鉄発足・・・1906＝27歳： 陸軍二等軍医(中尉)に任ぜられる。 韓国反日暴動1907＝28歳： 陸軍少将井口五郎の長女琴と結婚。し、代々木の借家に移る。東京第一衛戍病院で、病院長鶴田禎次郎から外科の指導を受けるが、希望して、

アヲヲ創刊・・・1908＝29歳： 東京帝国大学大学院に入学し、眼科学を専攻。ほぼ同時に陸軍一等軍医に進級。眼科では日本初の医学博士となった主任教授河本重次郎に学んで、

韓国併合・・・1910＝31歳： 修了し、陸軍軍医学校教官となる。一般外来患者の診療もし、軍陣医学の諸研究も始める。

明治天皇没・・・1912＝33歳： 医学研究のためドイツ駐在を命じられ、森林太郎(森嶋外)の見送りを受けて出発、大正政変・・・1913＝34歳： ベルリン着。イェナ大学、フライブルク大学、ミュンヘン大学などで見学と研修するうち、第一次大戦が始まり、ロンドンに避難の後、帰国。陸軍軍医学校教官となり、同時に済生会病院麹町分院の医務に就任。ドイツ駐在と帰国後の軍医学校で、その後の基礎が築かれる。 第一次大戦始1914＝35歳： 初の著書「トラホーム診断学講義」。陸軍省から徴兵検査用の色盲検査表を作ることを依頼され、「トラホーム図説」。*日本眼科学会学術集会で研究報告「色盲の名称について～付新案仮性同色表」、のち、{日本眼科学会雑誌}に論文掲載。また、かねて提出の大学院卒業論文「特異性夜盲症或は結膜乾燥症の原因について」により、医学博士となる。留守中に{東京日々新聞}の取材を受け、子が親の顔を知らないと言われたほど仕事にうちこみ、最初の「石原式日本色盲表」を完成。色盲検査表の欧文版の原形を作成し、出版を{丸善}にもちかけるも断られ、

ロシア革命・・・1917＝38歳 本格政党内閣1918＝39歳： *{半田屋}にたのんで、「石原式欧文色盲検査表(万国色盲検査表)」を600冊印刷、うち90冊を世界各国の大学や眼科医に寄贈する一方、「学校用色盲検査表」を作成。

大暴落・・・1920＝41歳 原敬首相暗殺1921＝42歳： 東京第二衛戍病院長と陸軍軍医学校教官を兼務。千駄ヶ谷に借家。「新訂再版トラホーム図説」。陸軍一等軍医正に進級し、軍医学校に復帰。「学校用色盲検査表」出版、同年中に第3版まで出、以後、毎年のように版を重ねる。

水平社結成・・・1922＝43歳： *東京帝国大学医学部に就任、河本重次郎の後任として第2代主任教授となる。図書室、研究室、暗室を拡張するなど、施設充実を奔走。みずから図書を収集したと言われる。

関東大震災・・・1923＝44歳 護憲三派圧勝1924＝45歳： 地震の大混乱の中を軍隊生活で鍛えられた精神力と行動力をもって切り抜ける。「近世眼科処方集」、

治安維持法・・・1925＝46歳： 「小眼科学」第1版発行し、利益は医局にプールして財政健全化に寄与する。

日本時代始・・・1926＝47歳： 陸軍軍医監となり、直後に、予備役。

世界恐慌・・・1929＝50歳： 「学校用色盲検査表」は第8版から新訂。「アムステルダムでの第13回国際眼科学会で、色神の国際的検査法の統一に関し、スチルリング表、ナーゲルのアノマロスコープとともに、石原式色盲検査表が採択される。

満州事変・・・1931＝52歳 五一五事件・・・1932＝53歳： 自らをかこむ東大眼科同窓会第1回会合が開かれ、{一新会}の名称案が出される。石原式「新式色盲検査表」「The Series of Plates Designed Test for Colour Blindness」を出版。国際連盟脱退1933＝54歳： 教授在職10周年記念に同窓生から肖像画、逸話文集「石原先生」、南伊豆の川津の別荘{一新荘}まで贈られる。「マドリッドでの第14回国際眼科学会で、石原式色盲検査表をスチルリング表と並んで採用する決議。現代医学大辞典第6巻として「眼科学編」。

帝人疑獄事件1934＝55歳： 東大眼科教室に蔵するものを編集し「眼病図譜」上下巻を著す。

芥川直木賞始1935＝56歳： 石原式「欧文色盲検査表」第7版から、それまでの倍の32表となる。

二二六事件・・・1936＝57歳： 「邦文国際色盲検査表」。以後3年、東京帝国大学医学部長。

日中戦争始・・・1937＝58歳 第二次大戦始1939＝60歳： 「結膜炎の診断と治療」「内科的疾患に見られる眼症状と治療」。「国際色盲検査表」第11版。「学校用色盲検査表」はこの年の第14版まで続く。

大政翼賛会・・・1940＝61歳： 東京帝大を定年退官し、名誉教授に。

日米開戦・・・1941＝62歳： 「学窓余談」。東京通信病院長に就任。「石原式日本色盲表」はこの年の12版まで続く。「色神及び色盲の研究」で帝国学士院賞と朝日文化賞を受賞、

・・・1942＝63歳： 「日本人の眼」、

創価学会検挙1943＝64歳： 「トラコーマの病原並にトラコーマと包括体性結膜炎の関係」。前橋医学専門学校初代校長を兼任するが、

敗戦・・・1945＝66歳： 石原表は、印刷所も焼け、原簿も失われ、物資不足で印刷困難に。以後、困難が続く。

新憲法公布・・・1946＝67歳： 原歴による公職追放前に、前橋医学専門学校校長を辞任。南伊豆の川津の別荘{一新荘}に移住し、{川津眼科医局}を開設。名声を慕う患者は門前市をなすが、ていねいに診療を続ける。また、村の若者に本を読ませようと思い、東京の自宅を売って、旧村役場を買取り、私設図書館もつくる。

独立回復・・・1951＝72歳： 妻が脳溢血で倒れる。{川津文化の家}を作る。

メデー事件・・・1952＝73歳： 公職追放解除され、

55年体制始・・・1955＝76歳： また新国字研究にも努力し、「ローマ字式カナ文字」を作成発表。「色盲研究会」会合が始まる。

国連加盟・・・1956＝77歳： 妻が死去。紫綬褒章。

なべ底不況・・・1957＝78歳： 下河津名誉村民に推される。日本学士院会員となる。以後、例会出席のため毎月上京、これを機に印刷所をまわるなどして石原表の改善に努める。

美智子妃・・・1959＝80歳： 復活した「石原式日本色盲表」第14版は、過去最高という評価を得た。

安保闘争・・・1960＝81歳： 「あたらしい文字」、

たいたい病始・・・1961＝82歳： *文化功労者。眼科学と国字改良に関する研究を進め、学術文化の向上発展に寄与すべく、全財産を寄付して、財団法人{一新会}設立、色盲検査表の品質維持や改善に関する研究は、ここが受け継ぐこととなる。

全国総合計画1962＝83歳： 石原表が大蔵省印刷局病院の協力でコンサイス版の印刷。

TV宇宙中継始1963＝84歳： 没した。名誉町民として町葬となる。現在もお国際版38表が販売されている。

インターネットホームページ「夕闇迫れば(色覚と社会)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネットWikipedia、